

2026年(R8年)

3月

No. 403

ひとははこうしん



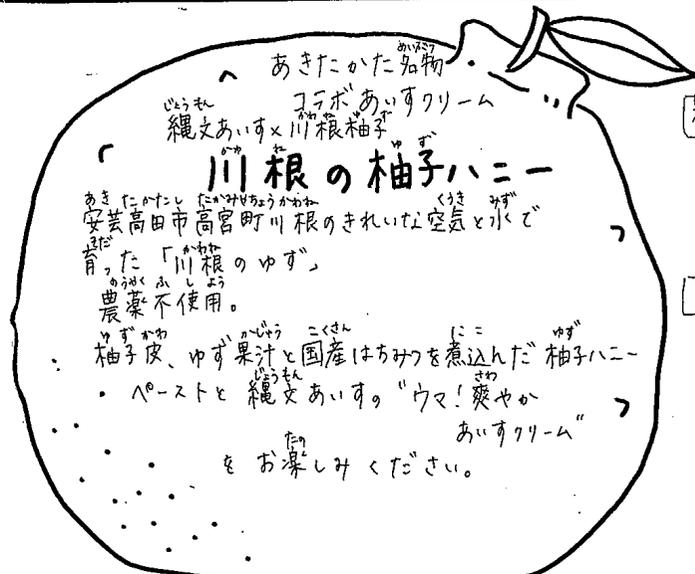
社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホム) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

ひとは福社会は9月に40周年を迎え、自身も記念の冊子である「ひびきあう」や記念映像の制作にも携わり、20年前にも周年企画である映像の制作に加わったことを懐かし思う。当時は入ってまだ数年で、20年の記念映像制作に加わりながらひとはの歴史を知る機会となった。今回はそこから20年。自身もその中で月日を重ね、いろんなことを経験し、いろんな部署ごきらの仲間やスタッフと一緒に作り上げてきた。元がおたまごの販売、ひとは館2号店の開店、マルサソでの洗浄、アグリサポートひとはの立ち上げ、そして、ちいきおこし協力隊の開始。中には終わってしまったものもあるが、今も地域に根付いて活動を展開しているものもある。振り返ると、いろんなことをしてきたとしみじみ。「いつもそうやって仕事をやってくるから忙しくなるでしょ」と言われたが、きららと一緒に『今日もがんばるぞー!!』から始まり、『疲れたけど、頑張ったね』と言ひ合える楽しさ。20代前半でひとはに入り、気がけば50歳に足かけはじめ、だんだんと体力の低下を感じつつも、テンションも上げて勢いでや、っていくスタイルは変わらず。結局ひとはが楽しいのだとこれを書きながら改めて思う。きららの仲間に支えられながら、ひとはの41年目が始まっている。

名前 **清井 正枝**
所属 **ひとはぼこ**
少し自慢できること
絵を描いたり、エッセイしたり
することが好きです

あなたらしい
スタッフが
ふえました



あきたかた名物
「**川根の柚子ハニー**」
安芸高田市高宮町川根のきれいな空気と水で育った「川根のゆず」、農薬不使用。
柚子皮、ゆず果汁と国産のはちみつを煮込んだ柚子ハニー
・ペーストと 縄文あいす、"ウマ! 爽やかなあいすクリーム"
をお楽しみください。

「縄文あいす」ひとは館
本店 (向原町長田1789-4)
火～土 10:30～16:00
店休 日・月・祝

ベジパーク店 (吉田町山手1059-1)
道の駅あきたかたベジパーク内
火～日・祝 10:00～17:00
店休 月 (月曜祭日(休業)、翌火曜日(休業))

道の駅 三矢の里あきたかたで谷川さんと川本さんの書と織の作品展を開催します。

谷川さん:「今年もサソリの展の計画をしていて、去年のチラシは川本さんに文字を書いてもらった。そこから自分のサソリに川本さんの書がぴたりだと思、た。」

富永さん:「あ、ぶのメ>バーと見に行き、はじめは作品展と聞いてもイメージ出来てなかったようでしたが、実際に見るとすごいと言、てそれに感じることもあるようでした。感想ノートにもみんな黙々と書いていました。」

川本さん:「「雲」の文字がすごいねと言われました。いっぱい練習しました。(今回の作品展)楽しかったです。また新しい作品を頑張、て書こうという気になりました。」



「雲」

ひ

「種をまく」

作業所で節分行事がいまから始まるという時の事です。増長さんに「もうすぐ鬼が来るよ」と伝えると「鬼が来る鬼が来る」と言われ大事なリユウカーに片付け始めました。「鬼に何をまく?」と聞くと「種をまく」と一言。それもいいねーと何とも言えない私でした。

(ひとは作業所 関内 宣子)

と

「想定外のハイタッチ」

福岡さんは作業所の活動後送迎車に乗るためのホーム玄関前まで歩いて行かれます。今日も、あれこれ話しかけながら玄関へ向かいました。途中、増野さんの挨拶を受け、片手のハイタッチも受けました。その時、福岡さんも片手ハイタッチ。

今まで、手を差し出すと握り返されることはあっても、ハイタッチは想定外なことでした。送迎車に乗って高沖さんにも話し、挨拶をされたハイタッチ。

歩行時や並たれている時のハイタッチは、バランスを崩し危ないかもしれません。スタッフがそばにいる時も座っている時は、笑顔でハイタッチをしてみてください。福岡さんの素敵な笑顔のハイタッチが返ってきますよ。

(ひとは作業所 今井 志保子)

は

の

「長屋文化」

ある夜のできごと。並んでいる夕食を前に寝ている本田さん、高伏さんの声をかける。食事を終えた内藤さんがさらに声をかける。血を洗うのちれとよと鐘坂さんが平田さんに、平田さんが他の人の血まで洗っているのを見た村井が「自分のだけじゃええよ」と平田さんに。「いや洗います」と平田さん。「洗濯終わるとよ」と鐘坂さんが本田さんの洗濯物を居室前に置く。平田さんが洗濯カゴが壊れたと持ってくる。大迫さんがそれをちゅちゅと直す、とこんな感じで過ぎた18時半から9時30分間。皆さん、理屈抜きで長屋文化(お互い様の精神)を体現しているようです。(ひとは長屋 村井 康二)

一、まずに、文尚さんが目指していた「江戸時代の長屋(隣近所で助け合うような雰囲気)のように入所施設。共同ホームを作る時の思いです。今のグループホームが少しでもその雰囲気を感じたいです。(寺尾 順子)

日

々

ひとは40周年を迎えて

私がひとはで働き始める前に、大学の実習でひとはに来た。その時、初めて会う私にきららがたくさん声をかけてくださったこと、きららもスタッフも楽しく活動させていたことがとても印象に残り、6年前に就職した。

ひあ・くらぶのスタッフと子ども様子を共有している時だったが、「あなたにはあなただけのいいんだよ」という話に何度かあったことがある。その言葉を初めて言われた時は、そう思えることはとても大事だと思いつつ、素直に受け止められなかった。ひあ・くらぶには日々いろいろな子どもたちがやってくる。それぞれの個性や好きなこと得意なことを大事にしたがって支援していく中で、「私は自分を大切にできているのか」「長所はたくさん思いつくけど、私の長所は何だろう」など、ひとはに入ってから「自分とは...」と考えることが増えた。「困った時は手伝って周りの人に頼っていいんだよ」と子どもたちに教えていく中で、私自身も少しずつ「周りの人に頼ってもいいんだよ」「一人で頑張るすぎなくてもいいんだよ」と思えるようになってきた。

これからのひとはが、「自分は自分のままでいいんだよ」「自分っていいよ」と感じて、自分を大事にしたがって過ごせる場所であってほしい。

山崎 志希

縮景後記

寺尾 順子

急なことで、ふだん着で、ジョッポン"モールへ。帰り際のこと。お店の中ほどに白いシャツに合わせたグリーンコートが。店の人に試着をすすめられるか中に着ているセーターには、又かあいてるんだって! 巡りあわせはあるのだ! 今コートは私の手元にある。さてどこに!

